

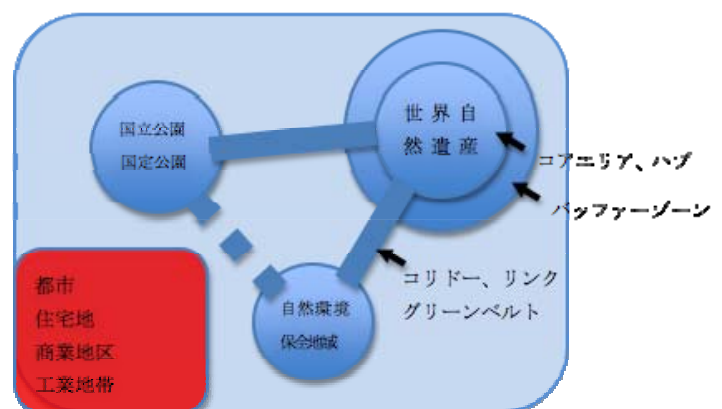
保護林の国際的位置づけに 関する考察

筑波大学大学院人間総合科学研究科
世界遺産専攻 教授
吉田正人

1. IUCN保護地域管理カテゴリー

□愛知目標11

- 陸域・陸水域の17%、
海域・沿岸域の10%
を保護地域に
- 生物多様性・生態系
サービスにとって特
別重要な地域
- 生態学的に代表なよ
く連結された保護地
域システム
- 周辺の陸上・海洋景
観に統合



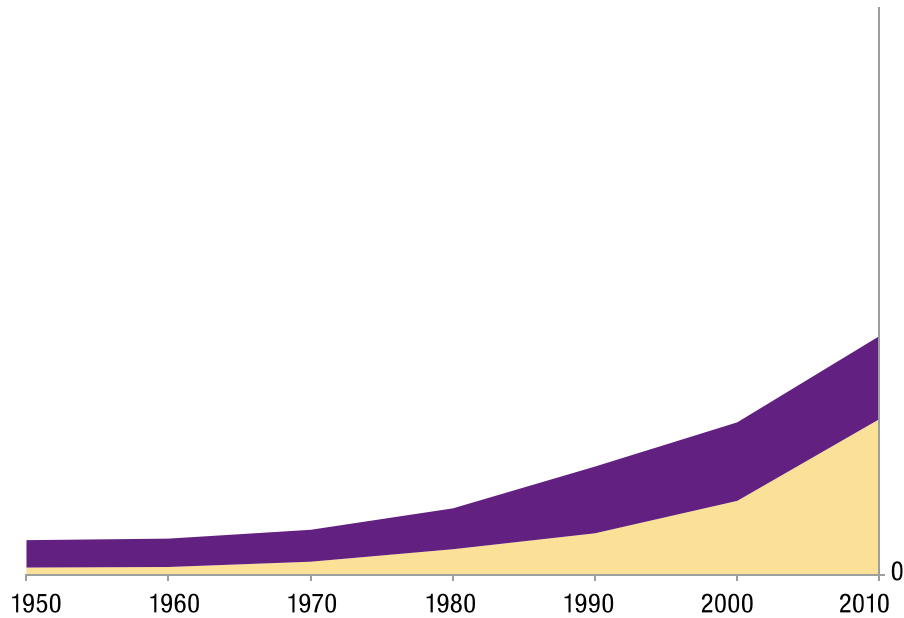
IUCN保護地域管理カテゴリー

カテゴリーI	厳正・原生自然地域 Strict Nature Reserve, Wilderness Area	学術研究と原生自然保護
カテゴリーII	国立公園 National Park	生態系保護とレクリエーション
カテゴリーIII	天然記念物 Natural Monument or Feature	特別な自然現象の保護
カテゴリーIV	種と生息地管理地域 Habitat/Species Management Area	種と生息地管理
カテゴリーV	景観保護地域 Protected Landscape/Seascape	景観保護とレクリエーション
カテゴリーVI	資源保護地域 PA with Sustainable Use of Natural Resources	資源の持続的利用

IUCN保護地域管理カテゴリー

カテゴリーI	厳正・原生自然地域	原生自然環境保全地域、自然環境保全地域
カテゴリーII	国立公園	国立公園の一部(主に東日本)
カテゴリーIII	天然記念物	天然保護区域
カテゴリーIV	種と生息地管理地域	生息地等保護区、国指定鳥獣保護区
カテゴリーV	景観保護地域	国立公園の一部(主に西日本)、国定公園
カテゴリーVI	資源保護地域	共同漁業権区域の一部

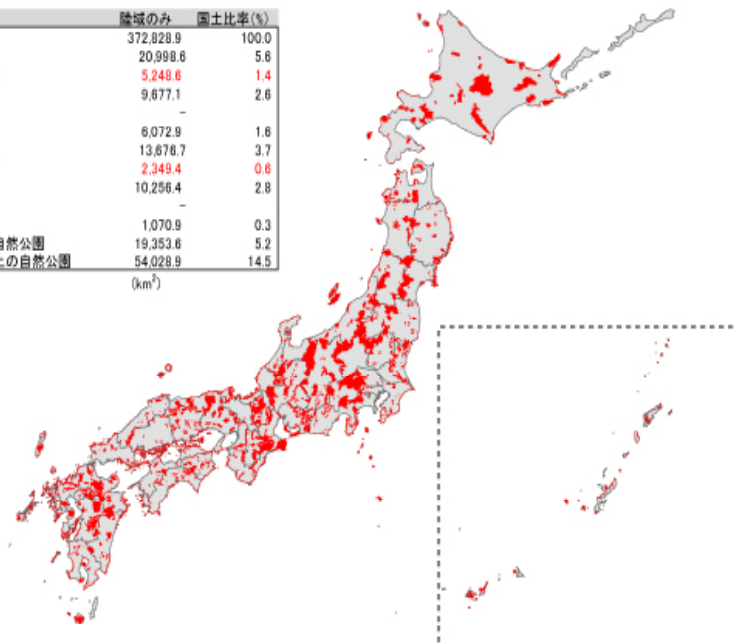
IUCN保護地域管理カテゴリー



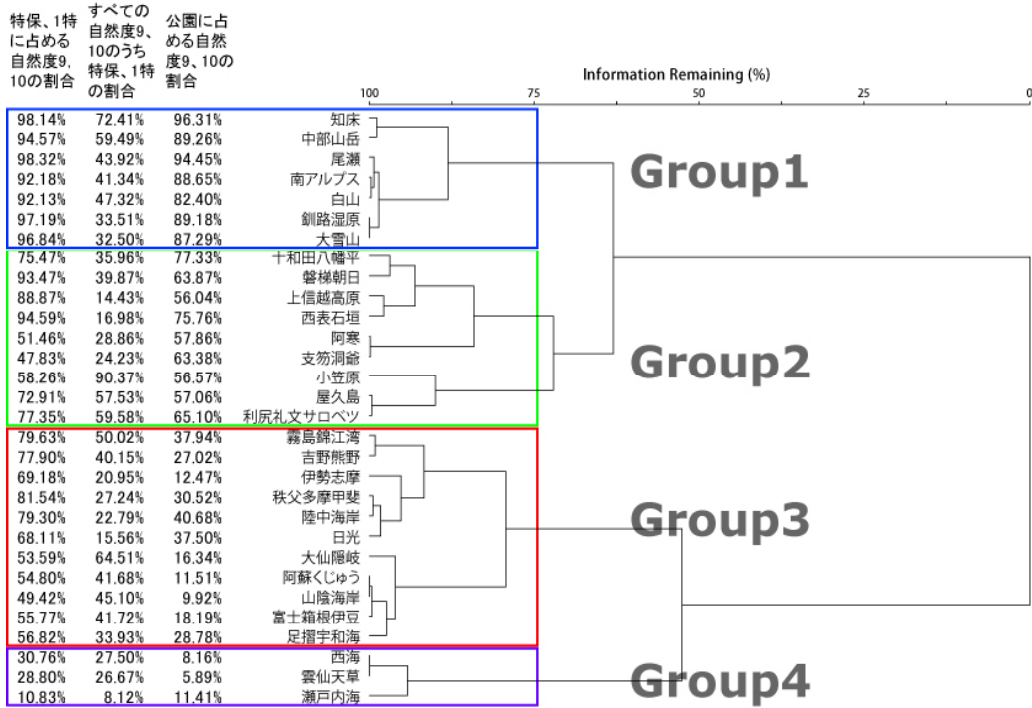
自然公園（国立公園・国定公園等）

	陸域のみ	国土比率(%)
国土面積	372,828.9	100.0
国立公園	20,998.6	5.6
特保+1特	5,248.6	1.4
2特+3特	9,677.1	2.6
海中公園	-	-
普通	6,072.9	1.6
国定公園	13,676.7	3.7
特保+1特	2,349.4	0.6
2特+3特	10,256.4	2.8
海中公園	-	-
普通	1,070.9	0.3
都道府県立自然公園	19,353.6	5.2
自然公園法上の自然公園	54,028.9	14.5

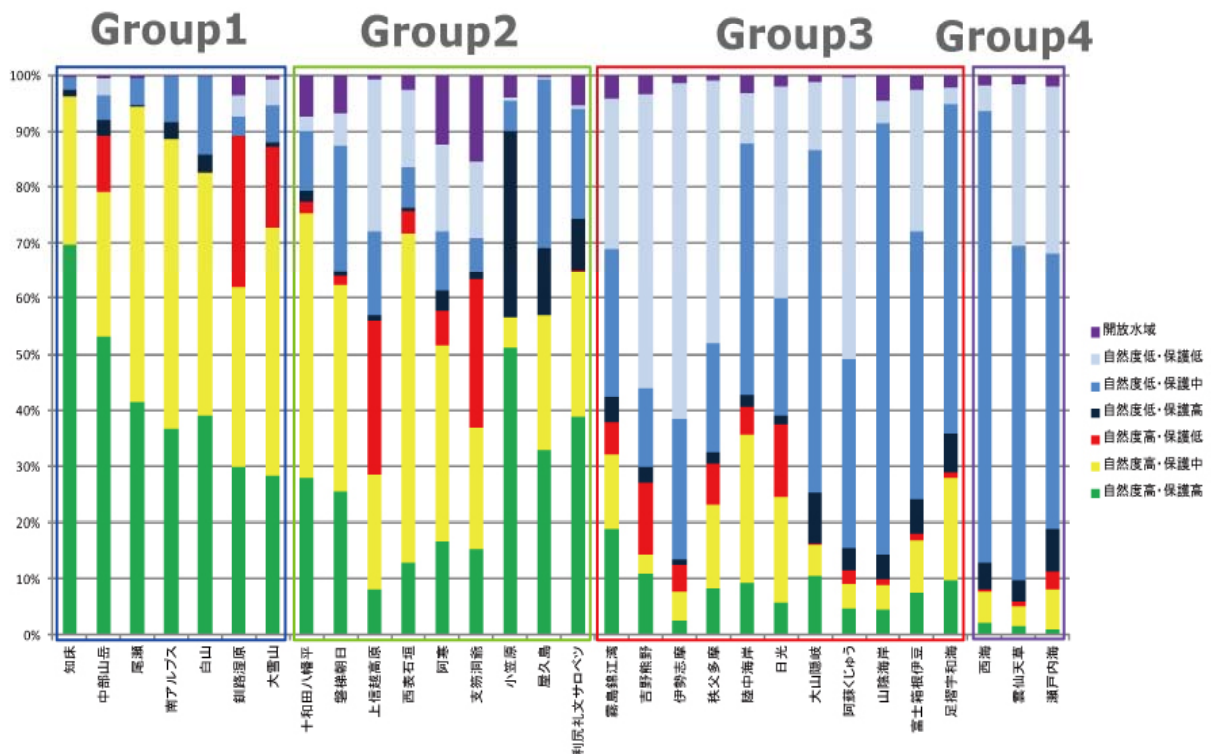
(km²)



国立公園のカテゴリー分析



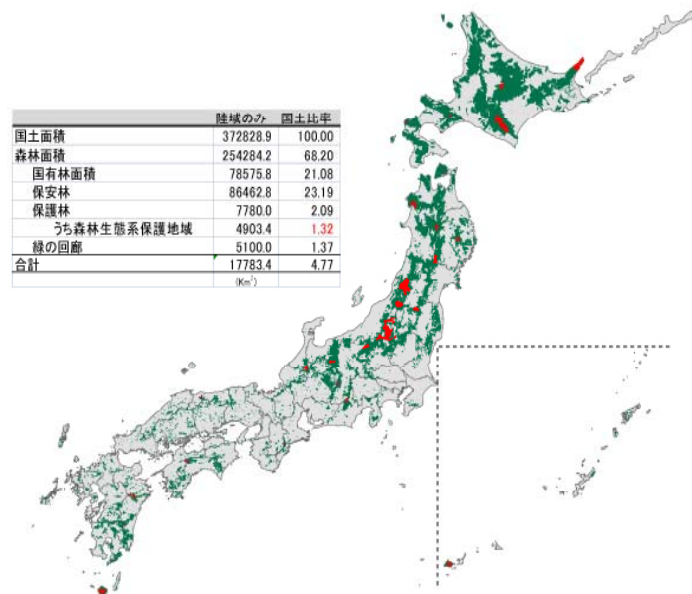
国立公園のカテゴリー分析



国立公園のカテゴリー分析

公園名	IUCN カテゴリ	クラスター 分析	理想的 IUCN カテゴリ
尾瀬国立公園 ※2	(II)	Group1	II
釧路湿原国立公園	II	Group1	II
知床国立公園	V	Group1	II
大雪山国立公園	V	Group1	II
中部山岳国立公園	V	Group1	II
白山国立公園	V	Group1	II
南アルプス国立公園	II	Group1	II
阿寒国立公園	V	Group2	II
西表石垣国立公園	V	Group2	II
小笠原国立公園	V	Group2	II
支笏洞爺国立公園	V	Group2	II
上信越高原国立公園	V	Group2	II
十和田八幡平国立公園	V	Group2	II
磐梯朝日国立公園	V	Group2	II

保護林(森林生態系保護地域等)



保護林のカテゴリー分類は？

- 森林生態系保護地域
 - カテゴリーIa(厳正保護地域)・・・学術的価値
 - カテゴリーIb(原生自然地域)・・・原生的価値
- その他の保護林(未分類)
 - 森林生物遺伝資源保護林、林木遺伝資源保存林・・・カテゴリーI/VI
 - 植物群落保護林、特定生物生息地保護林、特定地理等保護林・・・カテゴリーIII/IV
 - 郷土の森・・・カテゴリーV/VI

2. 保護地域グリーンリストと 保護地域管理効果

- 保護地域グリーンリスト(IUCN Green List of Well-Managed Protected Areas)
 - 公平なガバナンスと効果的な管理を通じて、保護地域の質を高めることを目的としている
 - 2014年10月韓国、生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)において、愛知目標に向けた進捗状況のチェック
 - 2014年11月オーストラリア、第6回世界公園会議において、グリーンリスト発表

2. 保護地域グリーンリストと 保護地域管理効果

- 保護地域管理効果 (Protected Areas Management Effectiveness)
 - 2004年、生物多様性条約第7回締約国会議 (COP7)において、保護地域作業部会 (PoWPA)
 - 2010年までに、保護地域の管理効果を評価し、向上させる (2006年までに評価手法を確立し、2010年までに30%の保護地域で完了させる)
 - 韓国ではすべての国立公園の管理効果評価を実施、日本ではまだ一つも行われていない

提 言

1. 愛知目標の達成をチェックするため、IUCN/WCMC等の協力を得て、すべての保護地域をカテゴリー分類した上で、世界保護地域データベース (WDPA) に面積を報告する。
2. 生物多様性条約PoWPA目標の達成と保護地域グリーンリストの創設に資するため、すべての保護地域の管理効果評価を行うとともに、グリーンリスト候補を推薦する。

「保護林の国際的位置づけに関する考察」

筑波大学大学院人間総合科学研究科教授 吉田正人

生物多様性条約愛知目標 11 は、2020 年までに陸域・陸水域の 17%、海域・沿岸域の 10%を保護地域とするという数値目標のみならず、生物多様性・生態系サービスのために重要な地域を保護地域とし、公平かつ効果的に管理され、生態的に連結し、周辺の景観と統合することを求めている。そのため、保護林についても、愛知目標達成に貢献する保護地域の一つとして、国際的な位置づけを行う必要がある

1. IUCN 保護地域管理カテゴリー (Protected Area Management Category)
IUCN では、保護地域国連リスト、世界保護地域データベース (WDPA) を作成する際の基準として保護地域管理カテゴリーを定めている (http://www.iucn.org/about/work/programmes/gpap_home/gpap_quality/gpap_pacategories/)。我が国においては、IUCN/WCMA による国立公園のカテゴリー分類が不適切であることから、環境省において見直しが進められ、これに対して日本自然保護協会は「保護地域アトラス」を発行して国立・国定公園の管理カテゴリー修正の提言を行っている (<http://www.nacsj.or.jp/diary2/2013/10/post-431.html>)。ここでは、保護林の管理カテゴリー分類は行っていないが、森林生態系保護地域の設置の趣旨から言えば、カテゴリーI 厳正保護地域/原生地域に分類されるべきだろう。しかし、森林生態系保護地域が、学術研究を目的とした Ia 厳正保護地域なのか原生状態の保存を目的とした Ib 原生地域なのかについては議論の余地がある。また、森林生態系保護地域以外の保護林については未分類である。
2. 保護地域管理効果(Protected Area Management Effectiveness)の評価
生物多様性条約保護地域作業部会 (PoWPA) は、保護地域の管理効果の評価を行いそれを向上させることを求めているが、我が国においては、国立公園や自然環境保全地域においてさえ未だに行われていない (<http://www.cbd.int/protected-old/PAME.shtml>)、

3. グリーンリスト (IUCN Green List of Well-Managed Protected Area)

IUCN は、生物多様性の保全と生態系サービスの維持を通じた先住民・コミュニティへの貢献などに関して、公平で効果的に管理された保護地域のグリーンリストを作成することによって、保護地域の誇りと保護地域管理への支持の増加やモチベーションを高めることをめざしている (http://www.iucn.org/about/work/programmes/gpap_home/gpap_quality/gpap_greenlist/)。1の管理カテゴリー分類と世界保護地域データベースへの掲載、2の保護地域管理効果の評価などを通じて、保護林も将来的に、IUCN グリーンリストへの掲載の可能性がある。